

針ナリ

船名録モ各望樓ニ備附ケアリ但配付豫算ノ現状カ他ノ緊要品ノ補足等ニ顧慮ヲ要スルモノアリ改版毎ニ備附クル能ハ

サリシモ隨時新版備附ヲ必要トス

海軍武官名簿ハ改版毎ニ配付セラレンコトヲ望ム

三、時間ヲ正スニ採リシ方法

各望樓トモ電信取扱法ニ依リ東京ヨリ發スル中央標準時ノ鐘報ヲ以テ正シタリ電話ヲ以テ連絡スル望樓ノ如キハ接續

電信局ト協定シ置キ便宜ノ方法ヲ用フルコト、セハ差支ナカラシ

時計ハ八角時計二箇分飛時計二箇ノ備附ケアリ是以上ノ増備ハ強チ必要トセス

第六十七號 明治三十八年一月五日對馬艦長海軍中佐仙頭武夫ヨリ水路部長ニ提出セルリヤンコール

ド島概要

リヤンコールド島ハ一帯ノ狹水道ヲ隔テ、相對峙スル二個ノ主島ト共ノ周圍ニ基列スル小嶼ヨリ成ル洋中ノ一小群嶼タル
ニ過キス此ノ小嶼ハ概ネ扁平ニシテ上面僅ニ水上ニ現出シ主島ノ周圍ハ奇觀ヲ呈スル洞窟ニ富ミ共ニ海豹群ノ棲窟タリ
主島ハ全部殆ト不毛ノ禿岩ニシテ海風常ニ全面ヲ嘗吹シ一株ノ樹木ナク南面ニ於テ野草僅ニ苔生スルヲ見ルノミ全周ハ
斷崖絶壁軟性ノ石屑ヨリ成リ周邊何レヨリスルモ攀登殆ト不可能ニ屬シ全島平坦ノ地ニ乏シク水道ノ兩側ニ於テ狹小ナ
ル平坦ノ礫地二三箇所アレトモ皆洋濤ノ襲來ヲ免レス東島ニ於テ菟茸ノ假小屋アリ海豹獵ノ爲メ夏季此ノ島ニ渡來スル
漁夫用ノモノニシテ當時著シク破壊シ僅ニ其ノ形跡ヲ止ムルノミ其ノ破損ノ狀況ヨリ判斷スルニ此ノ附近ヲ蹂躪スル風
波ノ猛威察スルニ餘リアリ試ニ風浪ノ銳鋒ヲ避ケ得ヘキ家屋建築用地ヲ他ニ求ムレハ僅ニ左記二箇所アルニ過キス
(イ)西島ノ東面ニ山崩アリ其ノ傾斜頗ル急ニシテ上半ハ殆ト直立シ到底攀ツル能ハサレトモ下半ハ稍緩傾ヲナシ辛ウシテ其

ノ中腹マテ攀登スルヲ得此ノ處地質強ナル岩層ニシテ之ヲ開鑿スレハ三坪弱ノ平坦地ヲ得ヘク東風ノ外悉ク遮蔽シ得

(H)東島頂部ハ一見平坦ナル部分多ク家屋建設ニ適スル如クナレトモ之ヲ踏査スルニハ經路ニ多大ノ工事ヲ施スニ非

サレハ局地ニ達スル能ハサルヲ以テ實見シ得サリシモ海洋ノ蠻風ニ對シテ四周暴露ノ難ヲ免レス然レトモ獨リ南端

ニアル平坦地ハ三四坪ノ廣サアルヘク西北ノ一方ハ遮蔽セラル、モノ、如シ

此ノ如クニシテ全島絶壁斷崖一溪地ヨリ隣溪ニ至ラントスルモ亦小舟ニ依ラサルヘカラス

西島ノ西南隅ニ一ノ洞窟アリ其ノ天蓋ヲナス岩石ヨリ滴出スル水ハ其ノ量稍多シト雖モ雨水ノ滴下スルト同様ニシテ之ヲ採取スルコト困難ナリ此ノ他數箇所ニ於テ山頂ヨリ山腹ニ沿ヒ滴瀝スル水アルヲ發見セルモ其ノ量僅微ニシテ其ノ經路ハ海豹ノ尿管等ニ依リ汚染セラル、ヲ見ル試ニ東島ノ東南隅ニ於テ滴下スルモノヲ採取シ檢スルニ一種異様ノ惡臭ヲ放チ黄色ヲ呈シ既ニ汚水タルヲ證セリ而テ化學的檢査上左ノ成績ヲ得到底飲料ニ適セサルヲ認ム

理學的反應 黄色有臭微溷濁酸性反應 格魯兒多量 硫酸多量 硝酸ナシ 亞硝酸ナシ 石炭少量 安母尼亞少量 有機質中量

海豹獵ノ爲メ渡來スル漁夫ハ海上平穩ナルトキ島水ヲ採取シ煮炊ノ用ニ供スレトモ飲料(茶)トシテハ他ヨリ持チ來リタルヲ用フト云フ

之ヲ要スルニ本島ハ瘠タル秃岩ニシテ海洋ノ蠻風ニ露出シ其ノ猛威ヲ避クルニ足ルノ面積ヲ有セス炊クニ燃料ナク飲ムニ水ナク食フニ糧ナシ聞ク毎年六七月ノ頃海豹獵ノ爲メ渡來スルモノ數十名ノ多キニ達スルコトアリ是等ハ皆一回約十日間宛假居ヲナシ獵獲ニ從事スレトモ皆其ノ他ノ季節ニ於テハ殆ト來ルモノナシト現ニ目撃スル幾百千ノ海豹群ハ周年獵獲スルモ尙餘リアルヘキニモ拘ラス六七月季ノ外來航スルヲ欲セサルハ蓋季節ノ風浪ニ對シ避難ノ途ヲ得ルニ苦マシムルニ基因スルモノナラン